

紐人

KUMIBITO

ひとつに
ひとすじ
ひと物語

創刊号
2013
6/20

小さな活字の集合体が情報になり、情報は人を動かす。 それが印刷屋の仕事だ。

今月の組人印刷職人

再び注目される活版印刷

インクの臭いが染み込んだその部屋の奥には、黒々と輝く、それはまるで蒸気機関車のような年代物の活版印刷機が並んでいた。

「失敗は絶対に許されないんだ！」それが今回の組人、阪田文雄さんの第一声だった。

活版印刷とは「活字版印刷」の略称で、鉛製の凸型の活字を一つ一つ組み合わせ印刷する技術。その歴史は古くヨーロッパでは火薬や羅針盤と共にルネサンスの三大発明と言われている。印刷技術の発達により殆ど使われなくなった活版印刷だが、デジタル主流の今だからこそ凹凸になった印刷面の手触りや温もりは若い女性やデザイナーを中心に静かなブームになりメディアでも注目を浴びている。

熟練された職人技

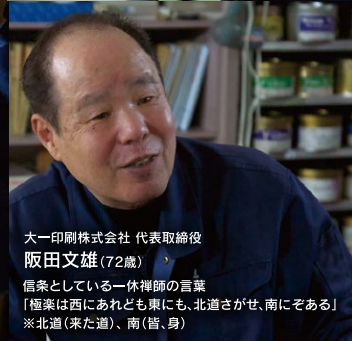
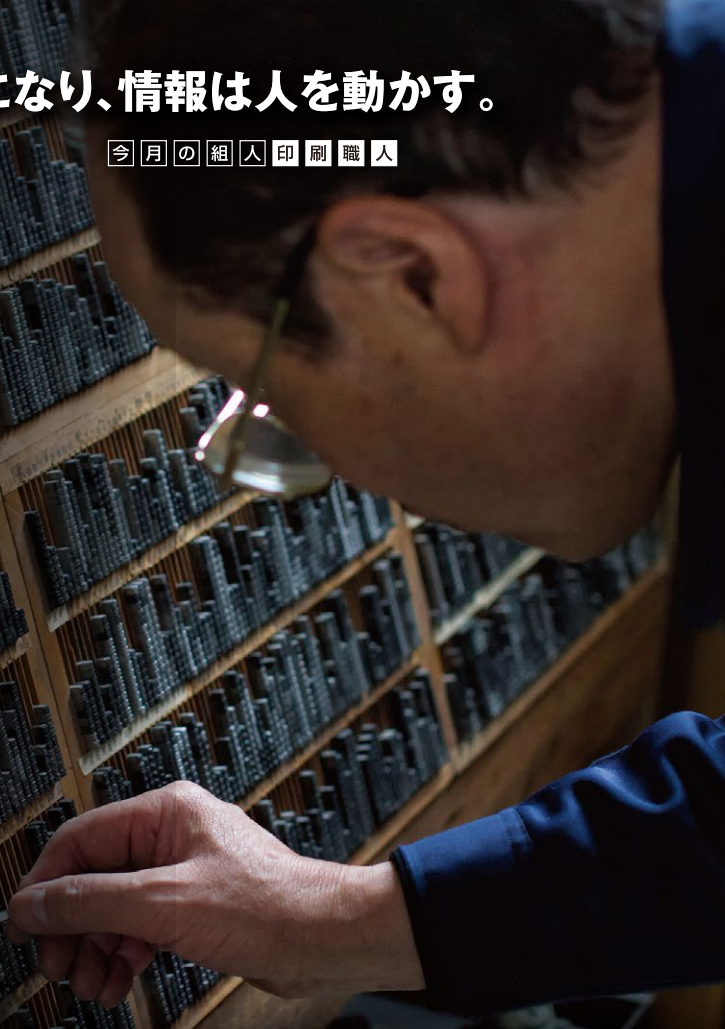
「今日は暑いですね。」その9文字を阪田さんに組んでもらうことにした。文選箱と呼ばれる小箱を片手に、数万個ある活字の棚(馬)に向き合う阪田さん。「久しぶりだからなあ」と少し照れくさそうな表情をしていたが、活字を探し拾い出す文選、拾った活字をバランスよく組み合わせる植字という作業には熟練された職人の技を魅せられた。

阪田さんが初めて笑みを浮かべてくれたのは、ドイツのハイデルベルグ社製「プラテン印刷機」を私が物珍しそうに見ていた時だった。今から約50年前に製造されたその印刷機に電源を入れるのは久しぶりだというが、「道具と機械を毎日磨くのは現場の人間なら当たり前のこと」その言葉の通り、「風車」の異名を持つプラテン印刷機はクワエと呼ばれるパーツがぐるぐると回転し、まるで昨日まで現役で働いていたような軽快な動きを見せてくれた。

失敗は許されない

ふと考えた、阪田さんが口にした「失敗は絶対に許されない」その言葉の意味を…。

文字揃えや行揃え、ルビヤトンボ出力など「組版ルール」が規格化され、キーボードを叩くだけで文字製版が可能になった現代印刷技術。Deleteボタンを押し、簡単に文字を消去・変更することなど出来なかった時代を生き抜いた印刷職人としての言葉がまさにそれなのではないかと。



大一印刷株式会社 代表取締役
阪田文雄 (72歳)

信条としている一休禅師の言葉
「極楽は西にあれども東にも、北道さがせ、南にぞある」
※北道(衆た道)、南(皆、身)

写真・高橋 正勝
取材・前田 剛和



大一印刷スタッフの独り言 失敗談 編

営業 宮本 隆行

Lock-On After Launch

私が大学生の頃、知り合いの募集ノルマ達成の為に受けた自衛官採用試験。適当に受けて落ちてくださいネ、と言われていたはずだが…。

受験したのは航空学生。1次は筆記試験と適正検査でした。試験では計器類の読み方などが新鮮でついマジメに解いてしまい、見事!? 1次パス。冷やかし受験なのに2次を迎え、身体測定、適正検査の後の面接、手早く終わらせてもらったので「幹部候補生を目指しているので航空学生は辞退します」と先制パンチ! 面接官は何とも言えない表情で「頑張ってください」…。

しかし実は面接直前の身体測定で身長が1cm足りず既に不合格でした。発射前に打ち落として欲しかった…。



制作 阪本 太一郎

お母さんゴメンなさい…

あれはもう何十年も前になりますが、私が高校2年生の日のことです。私は当時電車通学をしており、試験期間中のその日はお昼過ぎに帰宅し、夕方6時頃から夜中にかけて勉強をしようと仮眠をとりました。

自然に目が覚め時計を見ると「6:30」、やばい遅刻だ! 鈍行しか停車しない私の所では朝7時の電車に乗らないと完全に遅刻。起こしてくれなかった母親を怒鳴り、急いで制服に着替え家を出ようとした、まさにその瞬間です。母は私に夕方と朝の6時30分を勘違いしていたことを冷静に教えてくれました。

私は今でも、亡き母親を怒鳴ってしまった事を深く反省しています。とんだうっかり屋さんです…。



製造 上田 有美子

真冬のガス欠

まだ大丈夫! そんな軽い気持ちが高速度道路遭難? に繋がるとは…。

あれは大雪警報が出ていた5年前の冬、友達と富山へ買い物に行った帰り道でのことです。車内で話に夢中になっていると何故か徐々にスピードが落ち始め、10分後には完全にストップ。故障? …いや違います、ガス欠です。富山を出るときにメーターをチラッと見て「福井までは大丈夫♪」そう思った判断が間違っていました。私たちは凍りつくような車内で互いに励ましあいJAFが来てくれるのを待ち続けました。

まさか高速度道路で遭難するなんて……。因みに私、ガス欠はこれで4回目なんです…これって多い方でしょうか?



子どもと図書館

図書館に行かない人が多いそうです。子供とよく行く福井県立図書館の個人登録数は約4万8千人。県民の約6%しか利用していません。SNSに費やす時間が増えたり、自宅で電子書籍が借りられる時代になると、ますます図書館離れが進んでしまうような気がします。しかし図書館は書店とは違い、売れ筋ではない専門書や過去の資料なども幅広く揃えています。ネットとも違い、偏りのない情報に「直接」触れたり、「偶然」出会う事ができるのも好きなところです。親子連れにおすすめは「絵本の読み聞かせ」。お家ではなかなか上手に読んであげられなくても、訓練された方の読み聞かせは大人でも結構楽しめます。



また、県立図書館には外の景色を眺めながら本が読めるテラスや、テイクアウトも出来るフードコーナーもあり、芝生と雑木林の中を歩く遊歩道は子どもとよく散歩します(図書館にサッカーしに行くのウチだけ?)。「利用者6%」が多いか少ないかはわかりませんが、このような様々な取り組みは、ただ「本を借りる」という機能だけではなく、本を通して人が集まる「場」として生き残ろうとしている様な気がします。これって仕事にも通じるかも…。がんばれ図書館!

印刷にまつわるイトセトラ

圧倒的な存在感!
コストパフォーマンスに優れたブロックメモ。

今回ご紹介するのは、圧倒的な存在感と目を引く側面プリントが特徴のブロックメモです。

このブロックメモは正立方体で4つの側面に高精細印刷が可能なので下記のような美しい画像をそのまま表現することが出来ます。周年記念の販促品や御土産物、店頭カウンターでのディスプレイなど使用目的は無数ですが、静かに存在感を主張するブロックメモの訴求効果は抜群です。

もし、ちょっと変わった販促品や記念品をお探しであれば何なりとお問い合わせ下さい。



- サイズ:80×80×80mm ●綴り枚数:800枚
- オプション:ペン立て用に穴開け可能
- 包装:フィルム/シュリンク包装、アクリルケース

<仕様詳細>

編集後記

インターネットで誰もが世界中の情報を瞬時に知り得る時代。そんな時代に、あえてアナログな情報伝達手段をとる「組人(くみびと)」。印刷用語で“組版”とは、活字を組み合わせ印刷の版を作る工程のことを意味します。

例えるなら、組人は「人を組む」媒体です。人と人を組み合わせ、地域を彩るソーシャル・ペーパーを目指します。組人では毎号「職人」にスポットを当て、職人の生き様を徹底的に取材し紹介していきます。

今後とも「組人」を宜しくお願い致します。

前田

スタッフによるココだけ情報満載!



<http://www.bigone-p.com/blog/>